

平成 29 年度

(平成 29 年 (2017 年) 4 月 1 日～平成 30 年 (2018 年) 3 月 31 日)

事業報告書

公益財団法人浜松国際交流協会

目次

事業実施の背景と取り組み	3
事業報告	
多文化共生のまちづくり	
1. 相談事業	5
①外国人市民のための生活相談（市委託：多文化共生センター事業）	
②ワンストップ相談コーナーの運営（他機関連携事業）	
③出張相談（市委託：多文化共生センター事業）	
④中国残留邦人支援事業（市委託事業）	
⑤法律相談（自主事業）	
⑥行政書士相談（自主事業）	
⑦税務相談（自主事業）	
⑧メンタルヘルス相談（市委託事業）	
⑨ソーシャルワーク研修（市委託：多文化共生センター事業）	
⑩コミュニティ・エンパワメント（市委託：多文化共生センター事業）	
2. 日本語学習支援事業	12
①日本語学習支援講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
②学習支援ボランティア養成講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
③地域日本語学習支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業、自主事業）	
3. 外国につながる次世代支援事業	16
①外国人の子どもの不就学ゼロ作戦（市委託：外国人学習支援センター事業）	
②外国につながる青少年のキャリア支援（市委託：外国人学習支援センター事業）	
③外国につながる就学前の子どもと保護者の子育て支援（市委託）	
④はままつおもてなしボランティアセミナー入門（自主事業）	
4. 地域共生事業（市委託：多文化共生センター事業）	22
①各地域への個別支援	
②地域共生自治会会議	
5. 多文化防災事業（市委託：多文化共生センター事業）	24
①災害時多言語ボランティア養成研修	
②災害時多言語支援センター設置訓練	
③災害時に備えたネットワークの強化	
④災害・防災情報の提供	
6. 多様性を生かしたまちづくり事業（市委託：多文化共生センター事業）	26
①はままつ多文化共生 MONTH 事業	
②文化・スポーツ紹介	
③地域活性化事業	

グローバル感覚に優れた人づくり

1. グローバル人材の育成と活用	28
①地球人教育出前講座及びコーディネート（市委託：多文化共生センター事業）	
②国際理解教育講座（自主事業、市委託：多文化共生センター事業）	
③第8回はままつグローバルフェア（自主事業）	
④多文化体験・交流事業（市委託：外国人学習支援センター事業）	
2. 国際交流・理解のための外国語講座	33
①国際交流のための外国語講座（自主事業）	
②国際交流のための外国語サロン（自主事業）	
③外国人支援者のためのポルトガル語講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
3. 国際交流・理解のためのイベント（自主事業）	36
①音楽をとおして本多厚美に学ぶ「世界に通用する発音・コミュニケーション力」	
②親子で English & キッズ English	
③多言語 de 世界のクッキング体験	
④第7回ポルトガル語スピーチコンテスト	
⑤イギリス人 CIR が語る井伊直虎とエリザベス1世	
⑥ダビッドさんと英語であそぼう！	
⑦ロヒンギャ難民の今 バングラデシュの難民キャンプで見た「現実」現地視察報告会	
⑧バングラデシュ映画「アリ地獄のような街」上映会&エクマツトラ渡辺氏講演会	
4. 担い手の育成：ボランティア活動支援事業（自主事業）	39
①HICE ボランティアバンクの運営	
②ホームステイ・コーディネート	
5. 担い手の支援：国際交流活動支援事業	40
①多文化共生・国際交流推進事業費補助金の交付（浜松市補助金）	
②天竜地域事業（市委託：外国人学習支援センター・自主事業）	
③セミナールームの活用（市委託：多文化共生センター事業）	
④多文化共生・国際交流活動支援事業（市委託：多文化共生センター事業）	
6. 情報提供事業	43
①機関紙 HICE NEWS の発行（自主事業）	
②ホームページの運営（自主事業）	
③Facebook の運用（自主事業）	
④HICE info メールによる情報配信（自主事業）	
⑤CIR NEWS の配信（自主事業）	
⑥情報カウンターの設置（市委託：多文化共生センター事業）	
⑦「浜松市多文化共生都市ビジョン」改定調査とインターカルチュラルシティセミナー（市委託）	
⑧HICE 設立35周年記念誌「世界の人と暮らして」発行（自主事業）	

事業実施の背景と取り組み

外国人の受入れが加速化している。特に人手不足分野の介護においては 2017 年 9 月 1 日に新たな在留資格「介護」が施行、11 月には技能実習生として「介護」分野の受入れが始まった。サービス業においては、日本語学校在学中の留学生にアルバイトとして働いてもらう動きが強まっている。在住外国人の国籍別人数もこの 2 年ほどで大きな変化が起きており、全国的にベトナム人、ネパール人などが急増している。浜松市でもベトナム国籍者が在住外国人の中で第 4 位の人口となった。

浜松市では平成 29 年度は「多文化共生都市ビジョン」の最終年であり、新たなビジョン策定のための調査を当協会が浜松市より委託を受けて行った。加えて、浜松市はインターカルチュラルシティとしてアジアの都市としては初めてネットワークに加盟し、欧州を中心とした多文化共生の知見やノウハウの共有を今後進めていくことになった。

当協会における平成 29 年度の重点事業は、引き続きの事業として「外国につながる次世代支援」「多文化防災」、そして新規として当協会の 35 周年に合わせた記念誌と記念事業であった。

「外国につながる次世代支援」事業においては、特に、「外国にルーツを持つ青少年のキャリア支援」事業を行い、就職応援セミナーやロールモデルの若者による出前授業など間接的な支援から、高校での日本語学習支援のコーディネーターなどより直接的な支援まで様々な角度からの取り組みを行った。

「多文化防災事業」では、災害時多言語ボランティアの養成を引き続き行い、既存の顔ぶれに加えて新しい参加者も増えた。ボランティアのリーダー格のコアメンバーが定期的に顔を合わせることで、共通語の日本語で活発に意見交換する場面も増え、災害時に言語を生かして率先して災害支援活動を行う自覚が高まっている。

新規事業として当協会の 35 周年記念誌の作成と記念事業を実施し、職員全身体制で企画、取材、執筆した。特に記念誌は、単なる記録誌ではなく、この一冊で浜松市の現在の多文化共生状況を知ってもらえるような特徴的なものとなった。日本語版とポルトガル語・英語版が合体しており、また、ポルトガル語・英語版は日本語版を翻訳したものではなく、ポルトガル語・英語話者に向けて内容を吟味して編集したものであり、当事者の視点を大切にする当協会の姿勢がよく表れたものとなった。

組織面としては、能力の高い人材確保のためには職員の待遇改善を含めて様々な環境整備が欠かせない。そのためにも協会としての専門性を明確に打ち出し、当協会の存在価値を高めることによって財源を確保し、専門人材の育成と確保に努めていくという方向性を確認した。今後は、より戦略的な取り組みが必要になってくると思われる。

公益 1 多文化共生のまちづくりと グローバル感覚に優れた人づくり

多文化共生のまちづくり

相談事業

多言語生活相談、出張相談、ワンストップ相談(入国管理)、法律相談・行政書士相談・税務相談、メンタルヘルス相談、中国残留邦人支援、ソーシャルワーク研修

日本語学習支援事業

日本語教室、支援者養成講座、支援者のためのポルトガル語講座、教職員多文化共生講座
地域日本語学習支援

外国につながる次世代支援事業 p. 16

外国人の子どもの不就学ゼロ作戦、おもてなしボランティアセミナー

【重点】外国にルーツを持つ青少年のキャリア支援

【新規・重点】外国にルーツを持つ就学前の子どもと
保護者の子育て支援事業

地域共生事業

地域共生活動支援、モデル地区支援

多文化防災事業 p. 24

災害時多言語支援センター設置訓練、災害時支援ネットワーク構築

【重点】災害時多言語ボランティア・地域と連携した災害時訓練
多様性を生かしたまちづくり事業

グローバル感覚に優れたひとづくり

グローバル人材の育成と活用

国際理解教育セミナー、地球人教育出前講座

国際交流と国際理解の推進

国際交流・国際理解イベント、グローバルフェア、外国語講座、フェアトレード啓発

地域創造の担い手の育成と支援

ボランティアバンクの活用、補助金交付事業、市民団体ネットワークの構築と活用

情報収集・提供

HICE NEWS、ホームページ、フェイスブック、メール配信、情報コーナー

新規：多文化共生都市ビジョン改定にあたる調査とインターカルチュラルセミナー

【新規・重点】記念誌作成事業 p. 45

HICE 設立 35 周年にあわせ、多文化共生都市・浜松市の特徴や変遷、外国人市民のライフストーリーなどをまとめ、市民の多文化共生への理解を深めるような冊子を作成。記念事業も行った。

多文化共生社会の推進

多文化共生センター

外国人学習支援センター

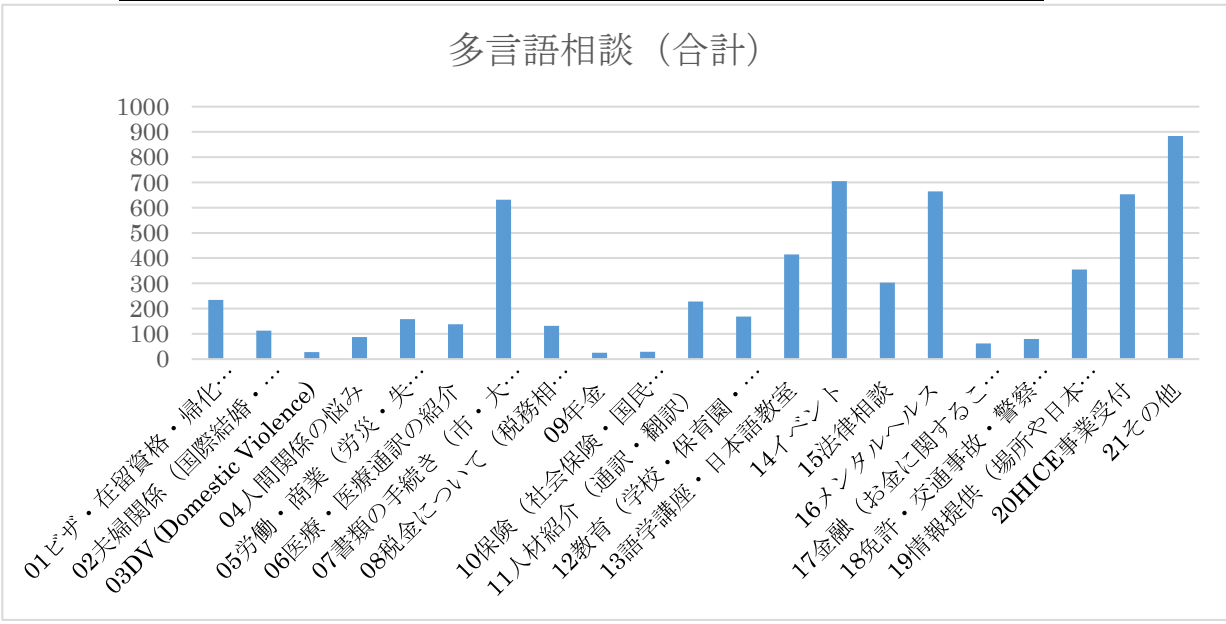
事業報告

多文化共生のまちづくり

1. 相談事業

① 外国人市民のための生活相談（市委託：多文化共生センター事業）（4,657件）

言語	曜日	時間	相談件数
ポルトガル語	火曜日～日曜日	9:00～17:00	2,545
スペイン語	日曜日	13:00～17:00	336
タガログ語	木曜日	13:00～17:00	237
中国語	金曜日	13:00～17:00	72
英語	月曜日～金曜日	13:30～16:30	141
日本語	月曜日～日曜日	9:00～17:30	1,321
その他			5
合計			4,657



ビザ・在留資格	夫婦関係（離婚他）	DV (Domestic Violence)	人間関係の悩み	労働（労災・失業・起業）	医療・医療通訳の紹介	書類の手続き	税金	年金	保険（社会保険等）	人材紹介（通訳・翻訳）	教育（学校・保育園）	語学講座・日本語教室	イベント	法律相談	メンタルヘルス	金融（お金に関すること）	免許・交通事故	情報提供（場所など）	HICE事業の受付	その他
156	102	74	211	138	91	233	68	21	37	175	167	308	499	177	343	101	74	417	511	753
合計 4,657件																				

■相談内容・傾向

昨年度に引き続き、英語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語以外の言葉を話す外国人からの相談が増え続けている。技能実習生や家族滞在、留学生などの在留資格の外国人から日本語で広いニーズの相談が寄せられてきている。全体の相談内容は市内で行われているイベント情報はじめ、金銭や心理的な相談、行政の手続きなどについての相談が多かった。

■各言語別の傾向

ポルトガル語	初来日したブラジル人からの相談や金銭的なトラブルが目立った。内容は「日本語教室」や「マイナンバー取得」、「借金の返済など金銭トラブル」「ペットの呼び寄せ」「黄熱病の予防接種」などについての相談があった。
スペイン語	近所の日本人との付き合いに関わる相談や借金の返済、育休、在留資格認定証明書の手続きなどについての相談が寄せられた。昨年度と同様にペルー人からの相談が多かったが、パラグアイやドミニカなどからの相談もあった。
タガログ語	フィリピンからの未成年の子どもの呼び寄せについての手続きや、ブラジル人とフィリピン人の国際結婚・国際離婚、子どもの監護権、日本で永住したいので、年金などについての相談があった。
中国語	一時帰国するための再入国の手続きについてや医療通訳の紹介、祖母と上手くいかない、教育ローンなどについての相談があった。
英語	英語の通訳がいる歯医者への紹介や日本語教室、永住ビザを取得するためには最低何年日本に住んでいないといけないかなどの相談があった。
日本語	留学生がアルバイトをするための書類に関してや国際結婚、帰化申請や通訳の紹介などについて、ベトナム、パキスタン、モンゴル、台湾、ネパールなど多国籍な相談者から相談があった。

■課題

現在、相談件数は減る傾向にあるが、その背景として、市や他の行政機関などの相談員や通訳対象に行ってきたソーシャルワーク研修の効果が出ており、ある程度の相談はそれぞれのところで解決できるようになったことなどが挙げられる。

しかし、様々な機関で対応に困って最終的に HICE に回されてくるなど困難なケースは増えている。このような場合、単純に他機関へつなぐだけではなく、ソーシャルワーク的な動きが必要なことがあり、より一層、相談員の専門性が求められるようになってきている。

② ワンストップ相談コーナーの運営（他機関連携事業）（119 件）

入国管理局と連携して、専門相談の窓口を配置した。

相談件数：延べ 119 件

③ 出張相談（86 件）

日 時 6 月 27 日（日）

出張先 浜松市総合産業展示館（浜松カトリック教会主催 フェスタジュニーナ）

相談件数：86 件

④ 中国残留邦人支援事業（市委託事業）（471 件）

中国在留邦人とその配偶者で、世帯の収入が一定の基準に満たない者に対し生活支援費を給付する際の業務補助、相談、通訳等の支援のために、相談員を配置し、通訳を派遣した。

■市内区役所（中・南・東・北）の福祉事務所に中国語による支援相談員 1 人を配置

日 時 週 3 日 13:00～17:00（143 日）

相談内容 病院にかかる際の言葉の心配、介護サービス申請の支援、子弟の教育や就職など

相談件数 延べ 295 件

対 象 12 世帯 16 人

■医療機関等へ通訳を派遣

件 数 176 件

対 象 14 世帯 42 人

⑤ 法律相談（自主事業）（57 人）

毎月最終木曜日に弁護士による法律相談を行った（12 月を除く 全 11 回）。

相談者数 延べ 57 人

協 力 静岡県弁護士会、関東弁護士連合会（11 月の拡大法律相談）

⑥ 行政書士相談（自主事業）（26 人）

毎月第 2 日曜日に日本での営業許可、国際結婚、会社設立、在留資格などの行政書士相談会を行った（2 月を除く 全 11 回）

相談者数 延べ 26 人

協 力 静岡県行政書士会 西遠支部

⑦ 税務相談（自主事業）（40 人）

日 時 平成 29 年 2 月 3 日（土）9:30～16:30

内 容 確定申告を必要とする外国人を対象に、通訳（ポルトガル語、スペイン語、タガログ語）をつけて、申告がスムーズに行えるように支援した。

参加者 相談者 30 人、通訳 5 人、税理士 5 人 合計 40 人

協 力 東海税理士会浜松西支部

⑧メンタルヘルス相談（市委託事業）（979 件 105 人）

ブラジル人心理士 2 人を配置し、ポルトガル語でのメンタルヘルス相談及び精神科等への同行通訳を行った。

■相談

日 時 週 5 日 9:00~17:00 週 2 日（火・金）は夜 9:00 まで

件 数 延べ 714 件（カウンセリング 664 件、相談 50 件）（前年度 626 件）

内 容 今年度のカウンセリング数は 664 回で、前年度に比べると 14.4%増加した。新規相談が 144(21.7%)回、国籍については、643 名(98.8%)がブラジル人、21 名(3.2%)がラテン系でスペイン語対応。大人の相談数は 538 名(81%)、子どもの相談数は 126 名(19%)だった。相談の時間帯は、昼間に 530 名対応、夜間（火、金）に 134 名対応した。夜間は前年度と比較すると 11.7%増えた。

これまでにない新しい相談として、以下のような特別なケースがあった。親しい人の衝撃的な死を受け、残された人がその死を受け入れていくまでの過程をサポート：ブラジル本国で専門的な職業についていた人が日本でそれを活かした職業に就けておらずストレスを強く感じている：カルト的な宗教の影響による狂信者の家族がストレスを負っている：養子であることを明かされてショックを受けてどのように対処すればいいか悩んでいる：家族遺伝のアルコール依存症：身体障害を持つ子どもの継続介護によるストレス：児童期の同性愛行動に戸惑う家族

課 題 不安、パニック、いらいらなどのメンタル的の症状に対して相談者は、身体的要因がない時は、本人の性格、生育歴や経験が原因であることを理解、意識して治療をしないといけないが、それを理解せず薬など安易な解決を求めることがある。

相談者によっては公的機関にてプライベートなことを明かし、情報が漏れるのではないかと恐れることもある。

家族等の説得により強制的に連れられて来る相談者は話をすることに抵抗があり、相談がうまく進まない。相談は継続せず、強制的に連れてこられたことに文句を言うだけの傾向がある。

子どものためにメンタルヘルス相談に来る場合でも、親側にメンタル的に問題があることが多いが、親はそのことを自覚せず、また親子とも相互に依存しあう関係にあるため、解決の方向に進むことが非常に難しい。

■通訳派遣

通訳件数 延べ 315 件（依頼数 393 件、うちキャンセル 78 件）（前年度 270 件）

内 容 精神科や発達相談関連の受診・相談に対し、専門性のある通訳を派遣。依頼は年々増加しており、昨年より 15%の増加となった。今年度は約 68%が子ども（18 歳以下）のケースだった。受診時の通訳ではないが、関連場面での支援として児童発達支援事業所と障害者相談支援事業所との間で契約を結ぶ時の通訳も増えている。

また、受診時以外に患者から通訳に連絡や相談の電話が入ることが増えている。内容としては、受診日の変更などの手続き的なことから、薬の効果への問合せや病状につい

ての訴えまで様々である。精神科での薬等もちいた治療のみでなく、カウンセリングが望ましい場合も多いため、HICE内のメンタルヘルス相談につなげるケースも多い。

課題 精神科での通訳のみでは解決せず、生活全般の支援が必要なケースが多くなっている。例えば、回復し始めた患者が仕事を探し始めたとき、就労先や相談先についての情報を病院は提供してくれるが、日本語のみの対応になってしまうため実際には本人が連絡をとらずそのままになってしまうことがある。また、病院を変更する時の手続きや福祉関係（特別児童扶養手当、療育手帳等）のシステムを理解し手続きを進めるのも難しい場合がある。

■ペアレント・トレーニング指導者養成研修

発達障害の子どもに対する親の接し方を指導する「ペアレント・トレーニング」講座をポルトガル語やスペイン語で直接外国人保護者に行うことのできる指導者を養成する研修を平成25年度より行っている。

今年度は、平成25年度よりペアレント・トレーニング研修を受けてきた4名と、新たに募集したメンバー5名を対象にペアレント・トレーニング指導者養成研修会を継続して5回行った。1回目はペアレント・トレーニングについての説明、その後4回に渡って研修の一環として保護者向けに実践を行った。

内 容 ①ペアレント・トレーニング指導者養成研修（準備研修）

日 時：9月9日（日）13：30～15：00

アドバイザー：野村和代（常葉大学講師）

参加者：6人（ブラジル人・ペルー人）

②ペアレント・トレーニング指導者養成研修（実践研修4回）

日 時：9月30日、10月14日、28日、11月11日 各土曜日9：30～11：00

アドバイザー：野村和代（常葉大学講師）

参加者：研修参加者計30人 コーディネーター5人

保護者計18人

延べ53人（ブラジル人・ペルー人）

成 果 ブラジル人・ペルー人の保護者にとっては、ペアレント・トレーニングを直接ポルトガル語で受講できる機会となっている。今年度は特にブラジル人コミュニティメディアに取り上げてもらったことにより新しい保護者層が参加した。さらに、研修を受けた外国人相談員や通訳者が自立し、ペアレント・トレーニングの実践者として自ら活躍できるように成長してきている。今まで研修を積み重ねて来たメンバー4名が今年度より自主的な活動を開始することになった。

■メンタルヘルスに関する啓発講習会（小集団活動）

①「外国にルーツを持つ就学前の子どもへの保護者向けセミナー」

日 時 5月28日（日）10：00～12：00

場 所 あいホール

参加者 受講者 6 人（ブラジル国籍） 講師役 4 人（ブラジル）

内 容 平成 25 年より、ペアレント・トレーニング指導者養成研修を受けて来たメンバーが自主グループを作り小さな子どものいる保護者向けに出前講座を行った。

②HICE メンタルヘルス交流会（メンタルヘルスサービス利用者交流会）

日 時 12 月 10 日（日） 14：00～16：00

場 所 多文化共生センター

参加者 36 人（ブラジル、ペルー等）

内 容 メンタルヘルス事業を利用している患者や発達医療機関で受診している子どもとその保護者を集めて交流会を行った。保護者が参加しやすいように全てポルトガル語で行った。子連れで参加出来るように子ども対応のスタッフをつけた。内容は、HICE の事業紹介、メンタルヘルスについての講話、参加者同士の情報交換、交流会。

⑨ソーシャルワーク研修（市委託：多文化共生センター事業）（124 人）

内 容 市や各機関・企業等の通訳や相談員が、多種多様な通訳場面や相談に対応するために、専門的知識を習得し、外国人市民の生活支援にあたるためのノウハウや心構えを学ぶ研修を行った。

対 象 各機関で外国人の通訳や相談にあたるバイリンガル者
ブラジル、ペルー、アルゼンチン、中国、フィリピン、日本

日時	テーマ	講師	参加者数
6 月 25 日（日） 10:00～12:00 会場：南部協働 センター	浜松に暮らす外国人の在 留資格について フィリピンナガイサ共催	行政書士	21 人
7 月 16 日（日） 14:00～16:00	ファイナンシャルプラン セミナー	ブラジル銀行職員 住宅会社 司法書士	46 人
8 月 25 日（金） 13:30～17:00	浜松市各課配属のポルト ガル語通訳職員研修	エベルトン・トバセ （ポルトガル語雑誌 編集長）	14 人
12 月 9 日（土） 14:00～16:00	公益通訳翻訳とは ～グローバルな視点から	津田守（名古屋外国 語大学教授）	41 人
合計			124 人

⑩コミュニティ・エンパワメント（（市委託：多文化共生センター事業）（323 人）

内 容 国籍別・言語別にそれぞれのニーズに応じてテーマを設定し、各言語によるセミナーを行った。

対 象 各外国人コミュニティの一般人

4月23日(日) 14:00～16:00 会場：三方原協働センター	(ベトナム人対象) 「教育相談セミナー」	高等学校教諭	9人
7月2日(日) 14:00～16:00	ブラジルの勤続年数補償基金(FGTS)& ブラジル総領事館のサービスについて	多文化共生センター	24人
7月16日(日) 10:00～13:00 会場：アイミティ浜松	(フィリピン人対象) 親子で学ぶ震災時の対応 フィリピンナガイサ共催	静岡県危機管理局	26人
8月19日(土) 10:00～17:00	(フィリピン人対象) 多様なサービス・情報の提供	携帯電話サービス、送金サービスなど	約200人
11月26日(日) 13:30～16:30 会場：南部協働センター	(フィリピン人対象) 労働環境と給料、税金について フィリピンナガイサ共催	税理士 社会保険労務士	20人
12月3日(日) 14:00～16:00 会場：青少年の家	在住外国人のための 「知っておきたい交通安全 全新ルールと事故の対応 方法」セミナー	外国人交通安全教育 指導員	44人
合計			323人

2. 日本語学習支援事業

①日本語学習支援講座（市委託：外国人学習支援センター事業）（5,625人）

（前年度 5,638人）

在住外国人に対して日本語支援を行う地域日本語教室。日常生活を行う上で必要な日本語コミュニケーション能力を学ぶ初級クラス、ひらがな、カタカナ、初級レベルの漢字、読みもの等を学ぶ読み書きクラスを開催。

協働団体：With U-Net

○初級クラス

（受講者数 延べ2,946人）

	講座名	回数	日付	受講者
第1期	入門	10	4月17日～4月28日	137人
第2期	入門	10	8月7日～8月28日	141人
第3期	入門	10	12月4日～12月15日	138人
第1期	初級①	25	5月8日～7月3日	591人
第2期	初級①	25	9月4日～11月8日	359人
第3期	初級①	25	1月10日～3月9日	366人
第1期	初級②	25	5月9日～6月30日	291人
第2期	初級②	25	9月5日～10月31日	433人
第3期	初級②	25	1月9日～3月6日	307人
第1期	実践	16	5月8日～6月29日	71人
第2期	実践	16	9月4日～11月2日	56人
第3期	実践	16	1月11日～3月8日	56人

○読み書きクラス

（受講者数 延べ2,679人）

	講座名	回数	日付	受講者
第1期	読み書き	40	5月10日～10月4日	1,327人
第2期	読み書き	40	10月13日～3月16日	1,352人

②学習支援ボランティア養成講座（市委託：外国人学習支援センター事業）（865人）

■日本語ボランティア養成講座

地域における日本語学習支援で必要とされる知識や技術を学ぶボランティア養成講座を開催。

協働団体：ネクスト

全16回／各期

	期間	受講者
第1期	6月9日～10月20日	延べ290人
第2期	11月14日～3月20日	延べ278人
合計		568人

プログラム例：日本語文法、異文化理解、外国語体験、外国人児童の現状、ボランティア体験

■日本語ボランティア実地研修

日本語教室を見学し、他者の活動内容や教授技術を学ぶ。
 教室後の振り返りに参加し、参考になった点や気付いた点を述べ技術を高め合う。
 見学シートを提出し、他者の教室活動を客観的に評価するとともに自己研鑽に努める。

日本語教室・初級クラス	延べ 51 人
日本語教室・読み書きクラス	延べ 19 人

■日本語学習支援者スキルアップ講座

(全 4 回)		(受講者数 延べ 72 人)		
回	日時	内容	講師	受講者
1	11月6日(月) 9:30~11:00	外国人学習者と日本語教育の専門家から学ぶやさしい日本語	坂本勝信 (常葉大学)	27人
2	11月6日(月) 11:00~12:30	外国人学習者と日本語教育の専門家から学ぶやさしい日本語	坂本勝信 (常葉大学)	27人
3	3月30日(金) 9:30~11:00	授業に活かそう!「読みもの」の教え方	坂本勝信 (常葉大学)	9人
4	3月30日(金) 11:00~12:30	授業に活かそう!「読みもの」の教え方	坂本勝信 (常葉大学)	9人
総合計				72人

■教職員多文化共生講座

小中学校教職員等外国人支援者を対象の夏季集中講座。
 共催：浜松市教育委員会「平成 29 年度第 3.4 回外国人児童生徒指導リーダー研修会」
 協働団体：セメンチ パラ オ フトゥーロ

8月2日(水) 9:30~16:30		(受講者数 延べ 155 人)		
回	時間	内容	講師	受講者
1	9:45~ 10:45	学校で使えるポルトガル語(外国語授業体験)	椎木マリナ セメンチ パラ オ フトゥーロ	31人
2	11:00~ 12:00	ブラジルの学校と日本の学校の文化の違い	柳澤クリス チーナ セメンチ パラ オ フトゥーロ	31人
3	13:15~ 13:45	外国人学校「ムンド・デ・アレグリア学校」見学	松本雅美 ムンド・デ・アレグリア学校	31人
4	14:00~ 15:15	「ひょうたん島問題」から多文化共生を考える	内山夕輝 公益財団法人浜松国際交流協会	31人
5	15:30~ 16:15	実践演習「多文化共生について考えたこと」	市川眞弓 浜松市教育委員会 教育総合支援センター	31人

③ 地域日本語学習支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業、自主事業）

(3,843人 82件)

■日本語学習支援団体ネットワーク会議

日本語学習支援団体間の情報の共有や共通課題の克服のためにネットワーク会議を開催した。

参加者数 11人 「第1回ボランティアによる情報交換会」

回	日時		参加団体	参加者
1	12月25日	13:30~15:00	浜松市教育委員会、浜松国際交流協会、放課後支援団体（龍の会、南の星小学校放課後勉強室、そらの会、浜名外国人サポーター、KSC子どもサポーターズクラブ）	11人

■地域日本語学習コーディネート業務（448人 82件）

- ・養成講座修了生による自主グループ「おしゃべりタイム」運営支援
「おしゃべりタイム」21回開催 延べ448人参加
- ・日本語学習支援ボランティアコーディネート
日本語ボランティア養成講座修了生の活動支援等 72件
- ・日本語コーディネート（自主事業）
企業（技能実習生受入企業、外国人託児所）への日本語教師募集協力 5件
日本語学習支援団体への日本語ボランティア募集協力 1件
留学生と日本語ボランティアの交流イベント企画協力 3件
個人への日本語プライベートレッスンマッチング 1件

■フィリピン人児童・生徒を対象とした就学支援教室（ハロハロ教室）(919人)

協力 NPO 法人フィリピンナガイサ

会場 南部協働センター

期間	曜日	時間	参加者（延べ）	
			はじめての日本語教室	寄り添い教室
5月13日～3月17日 (全33回)	土曜日	13:30~15:30	303人	616人

新たに来日する生徒は依然として増えており、5月7名、6月1名、7月4名、9月2名、2月2名の計16名が初期適応クラスに在籍した。中学3年生の年齢で来日した生徒の対応方法や、次の進路へのつなぎについて意見交換をしながら、臨機応変に対応することができた。生徒にとっての居場所や保護者の相談場所として機能を果たせており、卒業生がボランティアとして参加してくれた。課題としては、バイリンガル講師の確保や、日系フィリピン人の多い地域での開催ニーズ

に対応できないことがあげられる。引き続きネットワークを維持しながら新しいスタッフの増員も努めたい。

■ベトナム人の子ども学習支援（三方原教室）（429人）

協力 静岡県ベトナム人協会

会場 三方原協働センター

期間	曜日	時間	参加者(延べ)		
			就学前	低学年	高学年
6月7日～3月21日 (全35回)	水曜日	18:00～20:00	177	149	103

今年度は、就学前年齢、低学年、高学年に分けて活動を行った。学校での課題や宿題をボランティアにみてもらいながら進め、その後は市販の教材等で学習を行った。課題としては、来日したばかりの高学年への対応や、幼稚園・保育園児のニーズへの対応がある。また、保護者会は当初毎月行っていたが、保護者が忙しい状態が続いているため、参加が見込まれず、後半からは学期ごとの開催へと回数を減らした。保護者会での日本社会の情報は重要であるため、できるだけ実態にあわせて臨機応変に開催したい。

■浜北日本語教室（2,036人）

協力 浜北国際交流協会

会場 浜北文化センター 他

期間	曜日	時間	会場	参加者 (延べ)
4月1日～3月31日 (全64回)	土・日 曜日	13:30～17:00	浜北文化センター	1,500人
4月1日～3月31日 (全24回)	土曜日	午後	企業1社の寮	48人

文化交流

4月	フラワーパークお花見	24人
5月	富士山芝桜お花見	45人
7月	日本語能力試験おつかれさま会	28人
11月	彦根城、西明寺、金剛輪寺見学	43人
12月	日本語能力試験おつかれさま会	38人
1月	書初め、剣道等	53人
3月	帰国者送別会&ひな祭りお茶会	45人

日本語スピーチコンテスト

- ・開催日：平成30年2月4日（日）

- ・会場：なゆた浜北3階「なゆたホール」
- ・出場者：12人
- ・来場者：約200人

3. 外国につながる次世代支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業）

① 外国人の子どもの不就学ゼロ作戦

外国籍の就学年齢の子どもで不就学が確認された者につき、訪問等で実際の状況を確認し、状況に応じてなんらかの教育環境につなげる。

■就学状況の把握

調査内容

	調査項目	回数	対象
A	新小学校1年生	1回（年度始め）	4月に小学校1年生相当の年齢になる外国人子ども
B	転入者	6回	新たに浜松市に転入してきた外国人の子ども
C	退学者	6回	公立小学校、外国人学校等を退学した外国人の子ども

推定不就学者数

	調査項目	調査対象者	就学や転出が確認された者	推定不就学者（人）
A	新小学校1年生	39	8	31
B	転入者	171	73	98
C	退学者	97	27	70
	合計	307	108	199

■推定不就学者の訪問調査結果

			項目	内訳
推定 不就学 者 (199)	浜松市に居住（131）	就学（87） 支援・継続調査により 就学が確認できた者	公立小学校	14人
			公立中学校	4人
			私立中学校	2人
			市内の認可外国人学校 * 1	62人
			市外の認可外国人学校	5人
		実質不就学（20）	学習支援教室等に在籍	10人
		学習支援教室等にも在籍なし	10人	
	居住実態なし（68） 訪問等の調査により、転居・帰国が確認できた者	就学予定（22）	ガイダンス・手続き済みの者	22人
		対象外案件（2）	母国で中学を卒業後に来日等	2人
		転居・居住実態なし	26人	
			帰国	41人
			長期休暇を利用して来日等	1人
合計				199人

■平成 29 年度に行った 6 回の調査で実質不就学と確認された者への就学支援結果

(平成 30 年 3 月 31 日現在)

項目			内訳	
調査により不 就学が 確認さ れた者 (20)	浜松市に居住 (16)	就学 (7) 支援・継続調査により 就学が確認できた者	公立小学校	2 人
			公立中学校	1 人
			私立中学校	0 人
			市内の認可外国人学校 * 1	4 人
			市外の認可外国人学校	0 人
		実質不就学 (8)	学習支援教室等に在籍	2 人
	学習支援教室等にも在籍なし		6 人	
	居住実態なし (4) 訪問等の調査により、転居・帰国が確認できた者	就学予定 (1) * 2	ガイダンス・手続き済みの者	1 人
		転居・居住実態なし	転居・居住実態なし	0 人
	帰国		4 人	
合計			20 人	

* 1) 本国政府による認可 * 2) 教育委員会、学校、学習支援教室等と家庭の相談で 4 月入学を選択し、準備を済ませている者

■実質不就学者の内訳

項目			内訳
実質不 就学者 (8)	学習支援教室等に在 籍あり (2)	本国政府認可外の学習施設に通っている	1 人
		就学支援教室等に通っている	1 人
	学習支援教室等にも 在籍なし (6)	学校や支援教室に通っておらず、帰国予定もない	2 人
		就学予定あり	2 人
		転出 (国内・国外) 予定 (1 ヶ月未満)	0 人
		転出 (国内・国外) 予定 (1 ヶ月以上先)	2 人
合計			8 人

不就学者への支援

- ・不就学判明後の状況確認、面談 (随時)

■不就学者(全体)の現在の状況 (平成30年3月31日現在)

*平成28年度末に不就学だった3名を含む

項目		H28	H29	
実質不 就学者	学習支援教室等に 在籍あり(3)	本国政府認可外の学習施設に通っている	1人	1人
		就学支援教室等に通っている	0人	1人
H28(3) H29(8) 合計(11)	学習支援教室等に も在籍なし(8)	学校や支援教室に通っておらず、帰国予定もない	2人	2人
		就学予定あり	0人	2人
		転出(国内・国外)予定(1ヶ月未満)	0人	0人
		転出(国内・国外)予定(1ヶ月以上先)	0人	2人
合計		3人	8人	
総合計		11人		

■外国人学校スクールカウンセラー派遣(34回)

発達相談支援センター(ルピロ)と連携し、外国人学校にカウンセラー(臨床心理士)の派遣を行った。子どもの不就学理由には家庭の経済的理由だけでなく、自閉症や学習障害が疑われる場合があり、これらの子どもたちが不就学にならないようにするには継続したカウンセリングが必要であることが分かった。

また、発達相談支援センター(ルピロ)にて、年間6回の連絡会を実施し、専門的見地から適切な対処法などについてアドバイスをいただいた。

派遣者 馬塚瑞樹(臨床心理士)

学校名	実施スケジュール	実施回数
エスコラ・アウカンセ	第1水曜日 9:30-12:30	4回
ムンド・デ・アレグリア学校	第2,4水曜日 9:30-12:30	24回
EAS	第3水曜日 11:00-14:00	6回
合計		34回

※その他、就学促進教室(佐鳴台教室)より要望があり、緊急的に1回実施

実施スケジュール	会場	実施回数
隔月第4水曜日 15:00-17:00	浜松市発達相談支援センター (ルピロ)	6回

スーパーバイザー 内山 敏(浜松市発達相談支援センター所長)

② 外国につながる青少年のキャリア支援(462人16団体)

モデル校を選定し、先輩外国人青年からの報告やセミナー・ワークショップ等の開催により、自らの将来について考えるキャリア形成過程への支援を行った。

■外国につながる高校生のための就職応援セミナー

日時 平成29年6月16日(金) 13:30~15:30

会場 静岡県立浜松大平台高等学校

- 内 容 ・外国にルーツを持つ若者の就職体験談（先輩からの話）
・企業紹介
・個別相談・座談会

参加者 高校生 21 人、企業 6 団体・13 人

成 果 参加生徒数は前年の 18 人と比べてもあまり変わりなかったが、今回は自ら希望して積極的に参加してくれる生徒が多かった。福祉分野を希望する生徒が多く、聖隷福祉事業団と遠鉄アシスト(株)という新しい企業にご参加いただいたことにより職種が広がった。会場校となった浜松大平台高校としては、次年度は単発のセミナーではなく、COLORS の出前講座も含めて、キャリア支援プログラムの一環として実施してほしいという要望があった。

■関係諸機関とのネットワーク会議

外国人青少年の支援に係る関係諸機関との連携体制を構築するため、ネットワーク会議を実施した。

日 時 平成 29 年 6 月 16 日（金）16:00～17:00

会 場 静岡県立浜松大平台高等学校

参 加 16 団体

静岡県立新居高等学校定時制課程

静岡県立浜名高等学校定時制課程

静岡県立浜松大平台高等学校定時制課程

静岡県立浜松北高等学校定時制課程

静岡県立浜松工業高等学校定時制課程

学校法人イーエーエス伯人学校

学校法人ムンド・デ・アレグリア学校

ハローワーク浜松

NPO 法人フィリピノナガイサ

NPO 法人アラッセ

静岡県多文化共生課（オブザーバー）

静岡県教育委員会（オブザーバー）

公益財団法人静岡県国際交流協会（オブザーバー）

浜松市教育委員会（オブザーバー）

浜松市国際課（主催）

公益財団法人浜松国際交流協会（主管）

議 題 若者の状況について

来年度以降のキャリア支援研修の在り方について（意見交換）

■定時制高校へのロールモデルによる出前授業（出張 COLORS）

趣 旨 外国にルーツを持つ若者グループ「COLORS」が、外国にルーツを持つ高校生に将来について考えてもらうことを目的としたワークショップを行う。支援活動を通して彼ら自身の成長にもつなげる。

- 日 時 静岡県立大平台高校定時制 (5月29日 20時～21時)
 静岡県立磐田南高校定時制 (6月12日 20時10分～20時55分、7月10日 19時20分～20時55分、11月27日 19時20分～20時55分、12月18日 17時40分～18時55分)
 静岡県立新居高校定時制 (10月11日、10月25日、11月15日 20時20分～21時10分)
- 会 場 静岡県立大平台高校、静岡県立磐田南高校、静岡県立新居高校
- 対 象 大平台高校定時制、磐田南高校定時制、新居高校定時制に通う生徒
- 参加者 述べ297人 (大平台60人×1回、磐田南高校39人×4回、新居高校27人×3回)
- 内 容 ①交流：カードに書かれたテーマについてCOLORSメンバーと高校生が自由にトークタイム
 ②人生史：COLORSがライフヒストリーを紹介、生徒は人生の折れ線グラフを描く
 ③価値観・職業：自分の長所を挙げるゲーム、仕事に求める価値観カードソート、職業を知る
 ④将来までの道筋：夢を達成するために、卒業後から明日までにやることを模造紙に書く
- 成 果 高校側から、外国籍生徒が自分のこととして積極的に進路について考える機会となったので、引き続き行いたいという希望があった。

■高校生への日本語支援事業（自主事業）

- 派遣先 静岡県立浜松工業高等学校(定時制) (4月13日～2月15日 計31回)
 対象者4人 (延べ72人)
 静岡県立浜松大平台高等学校(定時制) (11月2日～2月16日 計7回)
 対象者1人 (延べ7人)
- 派遣者 日本語教師2名、日本語ボランティア1名

③ 外国につながる就学前の子どもと保護者の子育て支援

外国につながる子どもが生まれてから小学校への就学前の期間はこれまで状況や課題についてほとんど把握されてこなかった。そこで、就学前の外国籍の子どもの置かれている状況にはどのような課題があり、支援が必要なのか把握するために調査を行った。浜松市が一般財団法人自治体国際化協会の助成金を活用してHICEに委託して行った。(別途報告書あり)

■「保育分野」についての調査

- (1)子どもの日本語の語彙調査
 外国籍の子どもで日本の公立小学校へ入学を希望する子どもの語彙調査 214人
- (2)親の意識アンケート調査
 来年度小学校入学予定の外国籍の子どもの親への意識調査 152人
- (3)外国人経営の認可外託児所等の聞き取り調査 3ヶ所
- (4)先進事例「しんえい保育園」(浜松市)の聞き取り調査
- (5)浜松市内の小学校教員への聞き取り調査
- (6)他地域先進事例「れいんぼー保育園」(埼玉県)の聞き取り調査
- (7)その他関係機関・他地域先進事例の聞き取り調査

■外国人保護者向け子育て支援セミナーの開催（再掲）

日 時 5月28日（日）10：00～12：00

場 所 あいホール

参加者 受講者6人（ブラジル国籍） 講師役 4人（ブラジル）

内 容 メンタルヘルス事業の一環として平成25年より、ペアレント・トレーニング指導者養成研修を受けて来たメンバーが自主グループを作り小さな子どものいる保護者向けに出前講座を行った。外国人の乳幼児が多く通う保育園に協力してもらい、参加を呼びかけた。

成 果 初めてペアレント・トレーニングに触れる保護者ばかりで、子育ての考え方のヒントになると好評であった。受身の講義ではなく、ワークショップや意見交換を含めることで、身になる情報となりえる。今後、日本の子育て情報が入りにくい外国人保護者向けに積極的に機会を作っていく意義はあると思われる。

■考察

本事業全体を通して、考えられることは以下のとおりである。

- ・子どもの日本語の語彙力と保護者の日本語力には相関があると思われる。保護者に対して日本語教育を行うことで子どもの日本語の語彙力も向上する可能性がある。少なくとも、日本語の語彙力をつけようとする意欲につながると考えられる。したがって、保護者をターゲットとして日本語教育を行っていくことは子どもの日本語の語彙力の向上についても効果があると考えられる。
- ・外国人経営者による認可外託児所では、日本の認可保育園・幼稚園・子ども園のそれと比べると保育者の配置等を含め全体的に課題があると見られるが、保護者は全体的に認可外託児所に満足していることが分かった。認可外託児所の経営者側が課題として挙げていたことも、託児料の徴収の遅延や設備についてがほとんどで、保育の内容に関することは課題として挙げていなかった。そこで、託児所に対して保育内容の充実を目指すのと同時に、保護者が子どもにとって最善の選択ができるよう情報提供や将来的なビジョンを持って子育てをするように保護者の意識に働きかけることも必要だと思われる。
- ・外国人経営者による認可外託児所の保育内容の充実を目指すとしても、資金的に大きな課題があることも分かった。埼玉県にあるブラジル人経営者の認可保育園の例では、保育園経営者が派遣会社等の経営も行っており、その資金を背景に経営が成り立っている。浜松市内でも派遣会社が自社の外国人従業員のための保育園として始めた園が2017年4月より認可保育園となったが、それも会社経営の資金的背景があるために可能になったことと思われる。
- ・一方、浜松市教育委員会や公立の小学校の教員に聞き取りを行うと、外国人経営者による認可外託児所から小学校へ上がる外国人の子どもについては一般的に日本語力、日本の学校文化・社会の中での集団行動、保護者の学校への理解などについて課題が挙げられた。日本の公立小学校にスムーズに適応するための子どもに対する日本語や集団行動適応の支援、保護者に対する学校制度等への理解促進が求められている。

④ はままつおもてなしボランティアセミナー入門

6月に、東京オリンピック 2020 の事前合宿候補地として、ブラジルチームが浜松と覚書を結んだことを受け、浜松在住の次世代支援として企画をした。今回は、次世代の掘り起こしと関係機関や世間の反応を見ること、また、どこよりも早く HICE が次世代支援に取り組んでいることを PR することを目的として実施した。

日 時 平成 29 年 8 月 10 日 (木) 13:30-15:30

内 容

時間	内容	講師
1 時限目	オリエンテーション	HICE 職員
2 時限目	ブラジル文化とポルトガル語	HICE 職員
3 時限目	おもてなし日本語 (敬語)	HICE 職員
4 時限目	浜松市のシティプロモーション	観光 CP 課職員

参加者 12 人 (ブラジル 6 人、日本 5 人、中国 1 人)

成 果 次世代の掘り起こしは十分できた。この先もっと勉強したい、オリンピックで何か関わりたいと、参加者全員から連絡先を受け取り、反応が非常に良かった。対象と内容を絞っていけば、もっと掘り起こしができる。

また、新聞社のみならず大学の観光ゼミ教官からも問合せがあり、今後の連携の可能性を探ることができた。

課 題 今回は入門ということでダイジェスト的に行ったが、長期スパンで連続性を持たせた内容に充実させていくことも考えられる。また、徐々にではあるが、ブラジル領事館やブラジル銀行等、ブラジル関係機関の話も聞けるような機会も含めていく。

一方で、専門的なスキルが必要な内容 (通訳や翻訳等) をボランティアに任せる動きへの懸念もある。HICE としても、若者が都合よく利用されないよう、またそのように誤解されないよう、本事業はあくまでも次世代支援であることを強調していく必要がある。

4. 地域共生事業 (市委託：多文化共生センター事業)

参加者数：延べ 1123 人 18 件 (前年度 43 人 10 件)

① 各地域への個別支援 (18 件)

地域名	内容
幸自治会 (1 件)	引っ越してきたペルー人に自治会加入の案内、ゴミの出し方について説明をしたい→スペイン語の資料一式を渡す
県営浜北団地 (3 件)	翻訳依頼 (タガログ語・スペイン語) 「トイレに生理用品、紙おむつを流さないでください」「駐車場の代金の支払期限と遅れた場合について」「平成 28 年度会計決算報告」
入野南平団地 (2 件)	外国人住民が多くていろいろ困っているのを相談にのってあげてほしい、と県議会議員の田口さんより連絡あり。訪問して現状把握。翻訳依頼受ける (スペイン語・ポルトガル語) 「自治会費の支払をお願いします」「草刈りの案内」

遠州浜第三 自治会(3件)	翻訳依頼(ポルトガル語)「和太鼓のうち手募集・遠州浜夏祭り・子どもゲーム大会」「駐車場の集金の日程と金額の変更について」「定期総会開催の案内」
遠州浜公団 自治会(1件)	翻訳依頼(ポルトガル語)「車のアイドリングをやめてください」
曳馬町宮 自治会(1件)	翻訳依頼(ポルトガル語・タガログ語・中国語)「監視カメラ作 動中:ゴミの出し方と場所についての案内」
鷺の宮団地 自治会(4件)	翻訳依頼(ポルトガル語・英語)「自治会への加入のご案内」 「入会申込書」「自主防災隊活動規約」「集会所使用規約」
鷺の宮団地 自治会(1件)	違法駐車をなくすためにどうしたらいいか。
天王町西地区 (1件)	翻訳依頼(ポルトガル語、タガログ語)「自治会費の支払いのお願い」
神田団地 自治会(1件)	相談。違法駐車、ごみの違法投棄などがなくなる。 →役員会にて外国人役員の話聞きながら対応を検討

② 地域共生自治会会議(98人)(前年度43人)

「外国人住民とともにすすめるコミュニティづくり」

日 時 7月8日(土)13:30~16:30

会 場 多文化共生センター

内 容 【第1部】講義「外国人住民とともにすすめるコミュニティづくり
～三重県四日市市笹川団地での取り組み」

講師:喜屋武勇(多文化共生モデル地区担当コーディネーター
・笹川団地副会長)

早野実花(多文化共生モデル地区担当コーディネーター)

【第2部】情報交換・意見交換

参加者 47自治会92人、関係者6人 合計98人

成 果 外国人集住地区の自治会長のほとんどは外国人との多文化共生への取り組みに熱心だが、中には、外国人との共生に嫌気がさしている人もおり、平気で「外国人嫌い」と言う人もいる。そのような声を大きくしないように、多文化共生を取り組んでいくという機運を浜松市全体で高めておくためにも、外国人の少ない地域も含めできるだけ多くの人に、地域での外国人との共生のテーマについて前向きに考えてもらう雰囲気をつくっておくことが非常に重要だと考え、今回は外国人があまりいない地区も含め、広い範囲に案内を出した。それにより、非常に多くの自治会に参加していただいた。潜在的な関心が高いことが分かった。

四日市は笹川団地のみが集住地区なので、集住地区にコーディネーターがついて、人

間関係を築きながらきめ細かに対応できている。浜松市とは事情が異なるが、やはり、地域に密着する形で対応できるコーディネーター的な存在がいれば地域でのトラブルを未然に防ぐことも含め、多文化共生が効果的に推進できるのは間違いない。また、外国人が集住している公営団地は高齢化や福祉住宅化が進み、そもそも地域コミュニティがうまく機能しなくなっていることが多いため、外国人との多文化共生のためだけではなく、地域コミュニティの活性化という視点からも、例えば集住地区を抱える地区の協働センター数箇所に、地域コーディネーターを配置できればいいのではないかと。

5. 多文化防災事業（市委託：多文化共生センター事業）

① 災害時多言語ボランティア養成研修

第1回 「遠州病院 災害時訓練での通訳シミュレーション」

日 時 11月25日（土）9:00～12:00

会 場 遠州病院、遠州鉄道新浜松駅、アクト通り

参加者 25人（ブラジル、フィリピン、ペルー、中国、インドネシア、ベトナム、カナダ、アメリカ）

第2回 「自分を守る方法」&AED訓練

日 時 11月25日（土）14:00～16:00

会 場 多文化共生センター

講 師 ・鈴木里枝子（NPOはままつ子育てネットワークぴっぴ）
・伊藤広明（浜松市消防課専門官 消防司令長）

参加者 39人（ブラジル、フィリピン、ペルー、中国、インドネシア、ベトナム、カナダ、アメリカなど）

第3回 「地震の経験（ひなんじょ）について」

日 時 1月28日（日）14:00～16:00

会 場 多文化共生センター

講 師 浜松市危機管理課

参加者 37人（ブラジル、フィリピン、ペルー、中国、インドネシア、ベトナム、カナダ、アメリカ、ロシアなど）

成 果 新たなボランティアの募集もかけ、ロシアや英語系のボランティアを増やすことができた。

課 題 前回ボランティアとして参加した人の中には、職業が変わり週末も出勤するようになった他、市外へ引っ越した人もいる。そのため、新しいボランティアの募集を今後も継続していく必要がある。

②災害時多言語支援センター設置訓練

日 時 2月20日（日）13:30～17:00

会 場 多文化共生センター

参加者 25人（HICE職員15、浜松市危機管理課職員2、浜松市国際課職員3、日本語学習者4、やさしい日本語ワークショップ講師1）

- 内 容 ・災害時多言語支援センターの概要について
 ・やさしい日本語ワークショップ
 講師：坂本勝信（常葉大学浜松キャンパス経営学部准教授）
 ・災害時多言語支援センター開設・運営における課題及び設置運営マニュアルの改訂
 について（浜松市危機管理課、浜松市国際課、HICE の3者による意見交換）
- 成 果 前年度の訓練において課題となった、やさしい日本語への変換のスキルを身に付け、
 作業の難易度・ボリュームを浜松市危機管理課、浜松市国際課、HICE の3者が確認
 することができた。災害時多言語支援センター運営の課題の共有及びマニュアル改
 訂に向けた調整を行うことができた。
- 課 題 災害時多言語支援センターの訓練は、定期的な訓練と啓発、職員によるマニュアルの
 再確認の必要性を感じた。センターの運営は、職員のほか、ボランティアを取りまと
 め幅広い作業を行う必要があることから、それら団体などとの合同訓練も必要である。

③災害時に備えたネットワークの強化（連絡会議の開催）

・2月20日 「災害時多言語支援センター立上げ訓練」と同時開催

④災害・防災情報の提供（8件）

Facebook で災害情報を多言語で発信

災害注意情報 2回（台風注意報、大雨による避難勧告等）

災害関連情報 6回

月日	内 容	日	ポ	英
6/9	水難事故にご注意を	338	711	564
7/13	水難事故にご注意を		599	
8/7	台風接近 避難情報(2回)	376	844	406
8/27	浜松市津波対策事業基金 への協力をお願い		258	
9/9	災害時外国語表示・やさし い日本語シート集の案内		887	
11/24	災害時多言語ボランティ アの案内	734		
3/6	地震発生と大津波警報の サイレン吹き鳴らし訓練		390	

(リーチ数)

6 多様性を生かしたまちづくり事業（市委託：多文化共生センター事業）

① はままつ多文化共生 MONTH(月間) 事業

10月を「はままつ多文化共生 MONTH(月間)」として、多文化共生についての啓発を重点的に行った。「中日ショッパー」9月8日号には「多文化共生」を特集として掲載。浜松在住外国人による母国の家庭料理講座の様子を取り上げ、「中日ショッパー」の主な読者である主婦層に焦点を当てた内容とした。また、静岡新聞「びぶれ」9月28日号では巻頭特集として「多文化共生」を掲載。外国人学習支援センターの日本語教室および日本語ボランティア養成講座の修了生の活動の様子を取り上げた。あわせて「やさしい日本語」の紹介や、浜松市在住の外国籍住民7カ国の挨拶フレーズを紹介した。

成 果 新聞の折り込みで入る「中日ショッパー」と「びぶれ」で多文化共生の特集を組んでもらうことで、多文化共生に関心のあまりないと思われる一般市民に広く啓発することができた。普段はあまり活用しない広報ツールであるが、一年に一回くらいはいつもと異なる層に情報を届けることも必要である。

② 文化・スポーツ紹介

Facebookにより浜松市内の主要な文化・スポーツイベント等についての情報を多言語で提供。

10回

③ 地域活性化事業（352人）

■外国人留学生と企業の交流会

日 時 2月7日（水）10：00～12：00

会 場 静岡大学浜松キャンパス

参加者 静岡大学留学生15人（インド、バングラデシュ、インドネシア、ベトナム、スリランカ、トルコ）、企業4社6人

内 容 1) 講義「日本で働くということ」講師：浜松信用金庫法人営業部国際業務課
2) 企業説明（河合楽器(株)、聖隷福祉事業団、(有)春華堂）
3) 留学生からの共通質問
4) 個別質問

成 果 浜松信用金庫の協力を得て、「日本で働くということ」について講義をしてもらったことにより、日本企業の雇用習慣や企業文化について留学生に理解してもらう機会となった。また企業数をあえて絞ったことにより、個別相談でじっくりと話をする時間を取ることができた。

■外国にルーツを持つ高校生のための就職応援セミナー（再掲）

日 時 平成29年6月16日（金）13：30～15：30

会 場 静岡県立浜松大平台高等学校

- 内 容 ・外国にルーツを持つ若者の就職体験談（先輩からの話）
 ・企業紹介
 ・個別相談・座談会

参加者 高校生 21 人、企業 6 団体・13 人

成 果 参加生徒数は前年の 18 人と比べてもあまり変わりなかったが、今回は自ら希望して積極的に参加してくれる生徒が多かった。福祉分野を希望する生徒が多く、聖隷福祉事業団と遠鉄アシスト(株)という新しい企業にご参加いただいたことにより職種が広がった。会場校となった浜松大平台高校としては、次年度は単発のセミナーではなく、COLORS の出前講座も含めて、キャリア支援プログラムの一環として実施してほしいという要望があった。

■定時制高校へのロールモデルによる出前授業（出張 COLORS）（再掲）

趣 旨 外国にルーツを持つ若者グループ「COLORS」が、外国にルーツを持つ高校生に将来について考えてもらうことを目的としたワークショップを行う。支援活動を通して彼ら自身の成長にもつなげる。

日 時 静岡県立大平台高校定時制（5 月 29 日 20 時～21 時）

静岡県立磐田南高校定時制（6 月 12 日 20 時 10 分～20 時 55 分、7 月 10 日 19 時 20 分～20 時 55 分、11 月 27 日 19 時 20 分～20 時 55 分、12 月 18 日 17 時 40 分～18 時 55 分）

静岡県立新居高校定時制（10 月 11 日、10 月 25 日、11 月 15 日 20 時 20 分～21 時 10 分）

会 場 静岡県立大平台高校、静岡県立磐田南高校、静岡県立新居高校

対 象 大平台高校定時制、磐田南高校定時制、新居高校定時制に通う生徒

参加者 述べ 297 人 大平台 60 人×1 回、磐田南高校 39 人×4 回、新居高校 27 人×3 回

- 内 容 ①交流：カードに書かれたテーマについて COLORS メンバーと高校生が自由にトークタイム
 ②人生史：COLORS がライフヒストリーを紹介、生徒は人生の折れ線グラフを描く
 ③価値観・職業：自分の長所を挙げるゲーム、仕事に求める価値観カードソート、職業を知る
 ④将来までの道筋：夢を達成するために、卒業後から明日までにやることを模造紙に書く

成 果 高校側から、外国籍生徒が自分のこととして積極的に進路について考える機会となったので、引き続き行いたいという希望があった。

グローバル感覚に優れた人づくり

1. グローバル人材の育成と活用

① 地球人教育出前講座及びコーディネート

(市委託：多文化共生センター事業) (1,722人) (前年度 1,287人)

■学校への派遣

学校名	派遣人数		対象/参加者数
	登録ボランティア	専門職員	
浜松市立伊佐見小学校	1人		小学生 127人
浜松市立富塚中学校		1人	中学生 30人
浜松市立南の星小学校		1人	小学生 123人
静岡大学教育学部 附属浜松小学校	4人		小学生 70人
浜松開誠館中学校・ 高等学校	1人×7回		中学生・高校生 140人 (20人×7回)
浜松学院中学校		1人×2回	中学生 48人
浜松市立看護専門学校	1人×4回	1人×8回	看護学生延べ 420人
浜松医科大学		1人	大学院生 6人
常葉大学		1人	大学生 57人
9校	合計 30人		合計 1,021人

■協働センター等への派遣・コーディネート

派遣先名	派遣人数		対象/参加者数
	登録ボランティア	専門職員	
子どもの日本語教育研 究会		1人	100人
浜松通訳ボランティア ガイドHELPの会	1人		25人
浜松ロータリークラブ		1人	64人
浜松市立青少年の家	1人		20人
西区協議会		1人	50人
立教大学	4人	1人	50人
ヒューマンアカデミー		1人	6人
日本語教育学会		1人×2回	112人
自治体国際化協会		1人	25人
名古屋外国語大学		1人	大学院生 8人
10か所	合計 15人		合計 460人

■学校等からの訪問

学校名・団体名	訪問先・期間		訪問者数
	多文化共生 センター	外国人学習支援 センター	
外務省	1日	1日	1人
静岡大学	1日		26人
滋賀大学		1日	3人
大東文化大学		1日	1人
上田市	1日		28人
自治体国際化協会	1日		1人
一般社団法人中央政策研究所	1日		3人
国家公安委員会	1日		4人
静岡大学附属浜松中学校	2日		10人
浜松学院中学校	2日		27人
静岡県立浜北西高校	1日		1人
ベルリン自由大学大学院	1日		1人
関西大学		4日	2人
福岡県久留米市役所		1日	5人
西区障がい者自立支援連絡会		1日	40人
法政大学	1日		1人
中央大学大学院	1日		1人
東京外国語大学大学院	1日		1人
愛知大学	1日		1人
奈良女子大学	1日		1人
浜松市立北浜中学校	1日		4人
公益財団法人神奈川県市町村 振興協会	1日		3人
常葉大学	1日		4人
浜松中部学園（中部中学校）	1日		4人
明治学院大学	1日		1人
内閣府	1日	1日	1人
浜松学院中学校	1日		2人
金沢大学	1日		1人
関西学院大学	1日		1人
モナシュ大学/オーストラリア	1日		1人
都留文科大学	1日	2日	1人
兵庫教育大学大学院	1日		1人

明治大学	1日	1日	11人
静岡県警察浜松市警察部	1日		4人
東京都／東京都国際交流委員会／日本経営システム	1日		6人
九州経済を考える懇談会	1日		3人
関西学院大学研究グループ	1日		5人
大東文化大学／東京都板橋区	1日	1日	6人
京都市国際交流協会		1日	20人
早稲田大学大学院		5日	1人
40団体	延べ54日		合計237人

② 国際理解教育講座（自主事業、市委託：多文化共生センター事業）（58人）

（前年度201人）

■国際理解教育入門講座「このTシャツはどこからくるの？」ワークショップ体験

日時 9月9日(土)10:00～12:00

場所 多文化共生センター

主催 はままつ国際理解教育ネット

共催 はままつフェアトレードタウン・ネットワーク

講師 はままつ国際理解教育ネット 三田景子氏

内容 NPO法人ACEの教材「このTシャツはどこから来るの？」を活用し、ワークショップ形式でフェアトレードについて考えた。

参加者 16人

■「国際理解教育ファシリテーター養成リレー講座」

	日時	内容	講師	参加者
1	10月8日(日) 13:00～17:00	世界を知り、考えるための アクティブ・ラーニング	はままつ国際理解教育ネット	12人
2	10月21日(土) 13:00～17:00	地域に住む外国人とうまく 暮らしていくコツ!?	中央大学文学部教授 森茂岳雄氏	13人
3	11月12日(日) 13:00～17:00	浜松から「世界」を発見～ まち歩き～	はままつ国際理解教育ネット	9人
4	12月2日(土) 10:00～17:00	あなたも今日から国際理解 教育ファシリテーター	はままつ国際理解教育ネット	8人

③第8回はままつグローバルフェア（自主事業）（約5,500人）（前年度5,300人）

- 目的 ①広く市民（特に次世代を担う子ども・若者）に呼び掛け、国際交流に参加するはじめての
 一步の機会とし、文化を通じた多文化共生の社会づくりにつなげる。外国人と日本人同
 士の交流の場を提供し、気軽に多くの方に参加してもらう機会とする。
- ②浜松市内で国際理解や多文化共生、国際協力に関わっている団体や個人に企画者として
 参加してもらうことで、団体間の協力関係を構築する。より多くのアマチュアの市民グ
 ループにダンス・音楽などのステージに参加してもらうことで、発表の機会を提供す
 る。
- ③本年度はHICE設立35周年記念にあたることから、これまでHICEの活動を支えてき
 てくれた方々を中心に多くの市民とともに35周年を祝い、浜松における国際交流・多
 文化共生のより一層の推進のきっかけとなるようなイベントにする。

日時 2月11日（日）10:00～17:00

場所 クリエイト浜松

参加者 一般市民 約5500人

主催 公益財団法人浜松国際交流協会、はままつ国際理解教育ネット、公益財団法人浜松市文
 化振興財団（クリエート浜松）

後援 浜松市、浜松市教育委員会、独立行政法人国際協力機構中部国際センター（JICA 中部）、
 静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、NHK静岡放送局・浜松支局、FM Haro!
 K-mix

内容

1階			
会場	ブース名	担当	内容
ふれあい 広場	アートマイル	JICA	世界の子どもと日本の子どもがコラボで描いた圧巻の巨 大アートを展示 ★浜松学院中学校・藤枝北高校の作 品展示
	ワールドマーケッ ト	HICE	海外のかわいい雑貨やフェアトレードグッズで世界を感じ るお買い物を楽しもう♪
	パネル展示	HICE	国際交流団体、浜松市上下水道部、環境部、産業部（観光シ ティプロモーション）など
	FM ハロー！	HICE	★Fm haro! Amizade Hamamatsu（アミザージ・ハママ ツ）のラジオ公開生放送 13:00～15:00
創造活動室	食堂	HICE	食事スペース（ブルーシート、椅子）
外：中庭	世界の料理	HICE	世界の料理の販売（ブラジル、フィリピン、トルコ、ペルー、 タイ、フランス、カナダ、ロシア、フェアトレードキッチン）
2階			
ホール	HICE35周年記念 スペシャルゲスト サヘル・ローズ 講演会	HICE	11:00～12:30 HICE35周年記念特別講演サヘル・ローズ「外国人として 日本で生きるということ～多様性がもたらす豊かな社会 へ～ * 11:00～11:15 主催者あいさつ、来賓あいさつ（市長代理、ブラジル総領

			事)
	ワールドステージ	HICE	14:00～17:00 浜松市内の各国グループによるダンスなどのパフォーマンス
ホール前	展示	HICE	浜松に住む外国人のファッションスナップの写真展示。 (35周年記念誌のページを拡大)
21 講座室	国際理解教育 ワークショップ	はま国	10:00～16:00 国際理解教育ワークショップ
22 講座室	民族衣装体験	はま国 JICA	10:00～16:00 フェアトレードストラップ作り JICAのOBの協力による各国の民族衣装体験
アトリエ	巨大積み木	オイスカ 開発教育専門 門学校	10:00～16:00 間伐材をつかった積み木で巨大なオブジェをつくるコーナー
3階			
ギャラリー 35	HICE35周年記念 移民写真パネル展	HICE	2月6日(火)～11日(日) 10:00～19:00 ① 110年前に日本からブラジルへ移住した歴史についての 展示(協力: JICA 海外移住資料館)。 ② 「マンガでわかる移民の歴史」(鶴田俊美さん提供) ③ 1990年以降のブラジルから日本へのデカセギの歴史を 写真家 Junior Maeda の写真展を通して展示。
4階			
HICE事務局	本部・総合案内所	HICE	総合案内所、スタンプラリーゴール
多文化共生 センター前	パネル展示	HICE	HICE関係 パネル展示
5階			
51 会議室	交流体験	はままつ グローバル ハウス	留学生とおしゃべり
53 会議室	講演会	WAN (NPO ウイ メンズアク ションネッ トワーク)	13:30～15:00 講師: 中山慶子(静岡県立大学名誉教授) 参加費 500円
54 会議室	和菓子体験	HICE (田町梅月)	10:30～12:00、13:30～15:00 和菓子づくり体験(ねりきり) 参加費 500円
スタジオ	イスラム文化体験	HAMKA	10:00～16:00 イスラム文化体験
和室1 (萩)	着付け	Yumehana school	11:00～15:00 着付け
和室2 (松)	茶道体験	浜松ユネスコ 協会	茶道体験

④ 多文化体験・交流事業(市委託:外国人学習支援センター事業)(1,604人)(前年度1,284人)

外国人学習支援センターにおいて、日本文化を含む様々な国の文化を体験するような講座を実施。年に2回、交流イベントも行った。

■多文化体験(受講者数 延べ164人)

	日程	コース	講師	参加者
1	6月26日	流しそうめん	おしゃべりタイム	65人
2	10月27日	防災訓練	浜松西消防署職員 外国人学習支援センター所長	55人
3	2月28日	ひなまつり	おしゃべりタイム	44人
合計				164人

■多文化イベント

	第1回	第2回
テーマ	フェスタジュニーナ (ブラジルの収穫祭)	文化祭
開催日	6月4日(日)	11月25日(土)
場所	EAS 伯人学校	外国人学習支援センター
協力	セメンチ パラ オ フトゥーロ	
参加者	500人	940人
合計		1,440人

2. 国際交流・理解のための外国語講座

①国際交流のための外国語講座(自主事業)(188人)(前年度209人)

■国際交流のためのタイ語講座:初級(全12回・全8回)

講師	キッパームチャルーン・チュダー		
日程	火曜日 19:00~20:30		
第2期	9月12日~11月28日(全12回)	15人	受講者 合計30人
第3期	1月9日~2月27日(全8回)	15人	

■国際交流のための英語講座:中級(全12回・全8回)

講師	マーティン・ギブズ		
日程	水曜日 10:00~11:30		
第1期	5月10日~7月26日(全12回)	15人	受講者 合計39人
第2期	9月13日~11月29日(全12回)	15人	
第3期	1月10日~2月28日(全8回)	9人	

■国際交流のための英語講座：上級（全12回）

講師	第1期 サンチャゴ・コルテス 第2期 ヴィジェイ・パーテル		
日程	木曜日 19:00～20:30		
第1期	5月11日～7月27日	15人	受講者 合計25人
第2期	9月14日～12月7日	10人	

■国際交流のためのフランス語講座：初級（全12回）

講師	クニオ・パスカル		
日程	火曜日 19:00～20:30		
第1期	5月9日～7月25日	7人	受講者 合計13人
第2期	9月13日～11月29日	6人	

■国際交流のためのベトナム語講座：初級（全12回）

講師	坂井亜美		
日程	水曜日 19:00～20:30		
第1期	5月10日～7月26日	12人	受講者 合計21人
第2期	9月13日～11月29日	9人	

■国際交流のためのポルトガル語講座：初中級（全12回）

講師	柳澤クリスティーナ		
日程	金曜日 19:00～20:30		
第2期	5月12日～7月28日	11人	受講者 合計19人
第1期	9月15日～12月8日	8人	

■国際交流のためのインドネシア語講座：初級（全12回）

講師	リズキ・ヤフスナ		
日程	金曜日 19:00～20:30		
第2期	9月15日～12月8日	11人	受講者 合計11人

■国際交流のためのロシア語講座：初級（全12回）

講師	ブレンコワ・アルビナ		
日程	木曜日 19:00～20:30		
第1期	5月11日～7月27日	6人	受講者 合計6人

■国際交流のためのポルトガル語講座：初級（全12回・8回）

講師	柳澤クリスティーナ		
日程	火曜日 19:00～20:30		
第1期	5月9日～7月25日（全12回）	9人	受講者 合計24人
第2期	9月12日～11月28日（全12回）	8人	
第3期	1月9日～2月27日（全8回）	7人	

②国際交流のための外国語サロン（自主事業）（242人）（前年度214人）

■英語を通じて世界を知ろう！「世界のE-文化」（188人）

時 間 13:30～15:30

会 場 多文化共生センター

日時	講師	参加者
4月16日（日）	バリー・イブラヒム（ギニア）	14人
5月21日（日）	アナン・セドゥヨフトモ（インドネシア）	17人
6月18日（日）	ロデル・デヴェララ（フィリピン）	12人
7月23日（日）	ロス・ウィルヘルミ（アメリカ）	18人
8月28日（日）	ニッキー・カルロス（アイルランド）	19人
9月11日（日）	ハス・ファラ（アメリカ）	16人
10月15日（日）	パーシュヴィカ・シャーマ（インド）	16人
11月19日（日）	ジゼル・ドクマン（カナダ）	14人
12月17日（日）	タン・ソク・ティアン（シンガポール）	20人
1月21日（日）	マギダ・アルベス（ブラジル）	9人
2月25日（日）	ソントーン・ウイラー（アメリカ）	14人
3月12日（日）	シャリーーン・ティマアレンス（ドイツ）	19人
合計		188人

■英文小説を読んで英語を学ぼう！：全6回／上級以上（TOEIC700点以上）

講師	マーカス・スプリンガー		
内容	英語の短編を読み、アメリカ人講師と英語で話し合う。		
時間	19:00～20:00		
第1期A	5月10日～7月19日（第2・4水曜日）	10人	受講者 合計25人
第1期B	5月17日～7月19日（第1・3水曜日）	5人	
第2期	9月27日～12月6日（第2・4水曜日）	10人	

■英文小説を読んで英語を学ぼう！：全6回／中級以上（TOEIC450点以上）

講師	マーカス・スプリンガー		
内容	英語の短編を読み、アメリカ人講師と英語で話し合います。		
時間	19：00～20：00		
第2期	9月20日～11月29日（第1・3水曜日）	8人	受講者 合計8人

■雑誌編集長から学ぶポルトガル語のワークショップ（中上級・集中コース）

講師	トバセ・エベルトン氏（雑誌Alternativa編集長）		
内容	ブラジルにおいて2016年に新しく変わったポルトガル語の表記法について、また、より伝わりやすい翻訳の方法について、行政窓口などで通訳や相談を行う職員がポルトガル語の専門家から学ぶ。		
日時	8月26日 土曜日 9：00～16：00	受講者 合計21人	
受講者	21人		

③ 外国人支援者のためのポルトガル語講座

（市委託：外国人学習支援センター事業）（410人）

場 所 外国人学習支援センター

協力団体 Semente para o Futuro（将来のためのたね）

基礎～初級レベルのポルトガル語会話とブラジル文化を学ぶ

	日程	参加者
1期	5月25日～8月3日（11回）13:30～15:00 木曜・入門コース	226人
2期	10月12日～12月21日（11回）13:30～15:00 木曜・初級コース ※12月21日のみ 13:30～16:30	184人
合計		410人

3. 国際交流・理解のためのイベント（自主事業）参加者数：延べ1,047人（前年度783人）

① 音楽をとおして本多厚美に学ぶ「世界に通用する発音・コミュニケーション力」

（93人）

日 時 5月16日（火）、5月30日（火）、6月6日（火）13：30～15：00

場 所 クリエイト浜松 スタジオ

講 師 浜松市やらまいか大使 本多厚美氏（声楽家）

内 容 世界の有名な曲を歌いながら、英語などの発音や声の出し方を学び、表現力とコミュニケーション力を磨く。

参加者 延べ93人

共 催 浜松市中部協働センター

②親子で ENGLISH・キッズ ENGLISH (433 人)

未就学児の親子（親子で ENGLISH）・小学校 1 年生から 3 年生までの児童（キッズ ENGLISH）が
フィリピン人英語講師達と歌やゲームを通して、楽しく英語に親しみながら参加者どうしの交流
も行った。

日 時	4 月	5 月	6 月	7 月	9 月	10 月	11 月	12 月
	23 日	14 日	11 日	9 日	10 日	29 日	12 日	3 日
日曜日 10:00～11:30								
場 所	多文化共生センター							
講 師	Filipinos English Teachers in Japan (FETJ)							
参加者	43 人	49 人	53 人	52 人	52 人	62 人	59 人	63 人
合計						433 人		

③多言語 de 世界のクッキング体験 (154 人)

英語やその他の言語で、浜松在住外国人の講師からその国の家庭料理を学び、交流した。

共 催 NPO 法人 FRECTiVE

時 間 10:00～12:30

会 場 クリエイト浜松クッキングルーム、曳馬協働センター

日にち	内容	参加者
5 月 28 日 (日)	英語とウルドゥ語でパキスタン料理	26 人
7 月 23 日 (日)	英語と韓国語で韓国料理	26 人
9 月 23 日 (土)	英語とドイツ語でドイツ料理	26 人
9 月 30 日 (日)	英語でシンガポール料理	26 人
11 月 26 日 (日)	英語でトリニダード・トバゴ料理	23 人
1 月 27 日 (土)	英語とインドネシア語でインドネシア料理	27 人
合計		154 人

④ 第 7 回ポルトガル語スピーチコンテスト (160 人)

日 時 9 月 24 日 (日) 13:00～17:00

会 場 多文化共生センター

テーマ 自由

出場者 第 1 部門：(18 歳以上のラテン系の 4 言語 (ポルトガル語、スペイン語、フランス語、イ
タリア語) を母語としない方) 10 人

第 2 部門：(日本の学校に通っている 8 歳から高校 3 年生までの学生) 10 人

第 3 部門：(ブラジル学校に通っている 12 歳以上の学生) 10 人

参加者 130 人

共 催 在浜松ブラジル総領事館

⑤イギリス人 CIR が語る井伊直虎とエリザベス 1 世 (42 人)

日 時 7 月 23 日 (日) 10:00~12:00

会 場 多文化共生センター

講 師 エレン・ミッチェル (浜松市国際交流員)

内 容 女城主井伊直虎と、同時代に生きたイギリス女王エリザベス 1 世を比較した内容を紹介。
手書きのマンガを来場者に配布。日本語と英語とポルトガル語の 3 言語で制作。

参加者 42 人

⑥ダビッドさんと英語であそぼう! (64 人)

■親子で English

対 象 0 歳~3 歳の親子

内 容 手遊び、読み聞かせ、歌、ボール遊びなどを通じて英語にふれた。

日 時 8 月 4 日 (金) 10:00~11:30

会 場 多文化共生センター

講 師 ダビッド・マーテル

参加者 28 人

■英語で親子クッキング

対 象 4 歳~小学 6 年生の親子

日 時 8 月 6 日 (日) 10:00~12:00

会 場 クリエイト浜松クッキングルーム

講 師 ダビッド・マーテル

内 容 トライフル (スポンジや生クリーム、ゼリー、フルーツを重ねるお菓子) を作りながら
英語を学んだ。

参加者 36 人

⑦ロヒンギャ難民の今 バングラデシュの難民キャンプで見た「現実」現地視察報告会
(43 人)

日 時 10 月 1 日 (土) 13:30~15:00

会 場 多文化共生センター

参加者 43 人

主 催 SUAC for People (静岡文化芸術大学の学生団体)

⑧バングラデシュ映画「アリ地獄のような街」上映会&エクマツトラ渡辺氏講演会

(58 人)

日 時 11 月 3 日 (金・祝) 14:00~16:30

会 場 多文化共生センター

参加者 58人

主催 World Fact Filmist Hamamatsu

4. 担い手の育成：ボランティア活動支援事業（自主事業）

① HICE ボランティアバンクの運営（2,050人）（前年度1,966人）

通訳・翻訳、日本語教育、ホームステイ、イベント、出前講師に関する市民ボランティアの活動を推進した。

＜ボランティアバンク登録人数＞ 6区分

出前講師ボランティア	188人
通訳・翻訳ボランティア	423人
日本語教師ボランティア	387人
ホームステイボランティア	269人
情報提供ボランティア	194人
イベントボランティア	589人

合計： 延べ2,050人

②ホームステイ・コーディネート（188人）

■ホームステイ受入説明会「はじめてのホームステイ～おうちで始める国際交流」

日時 5月14日（日）13：30～15：00

会場 多文化共生センター

内容 ホームステイ受入の初心者の方を対象に、経験者の方（HICEボランティア）から、体験談や受け入れる際の心構えなどを紹介。

講師 相羽由紀さん 「色々な国からのホームステイを受け入れて」

伊藤真弓さん 「ムスリムの食事とベジタリアンの食事」

参加者 38人

■ 静岡大学「さくらサイエンスプラン」をコーディネート

依頼者 静岡大学グローバル企画推進室

期間 7月21日～7月23日（2泊3日）

参加者 インドネシア高校生8人、ホストファミリー8家庭

■浜松日本語学院「ホームステイ体験」をコーディネート

依頼者 浜松日本語学院

期間 10月14日～10月15日（1泊2日）

参加者 留学生（ベトナム、香港、インドネシア、バングラデシュ、フィリピン、スリランカ）7人、ホストファミリー4家庭

■JICE「対日理解促進交流プログラム（JENESYS2017）」をコーディネート

依頼者 一般財団法人 日本国際協力センター（JICE）中部支所

期 間 11月11日～10月2日（1泊2日）

参加者 留学生 中国 合計27人、ホストファミリー12家庭

■「静岡大学留学生ホームステイ体験」をコーディネート

依頼者 静岡大学 国際交流センター

期 間 11月17日～11月19日（2泊3日）

参加者 留学生（インドネシア、韓国、インド、マレーシア、ベトナム、台湾）11人、
ホストファミリー10家庭

※その他、下記のコーディネートに協力

- ・文化芸術大学・河村先生より依頼（アメリカ人大学生1名、10日）
- ・ハノーヴァー少女合唱団（ドイツ人女子中高生53人、2泊3日のうち、中高生4人、2家庭）
- ・JAAC日米学術センター（オーストラリア高校生9人、2ヶ月のうち、高校生2人、2家庭）

5. 担い手の支援：国際交流活動支援事業

①多文化共生・国際交流推進事業費補助金の交付（24件）（前年度29件）

浜松市内で活動する多文化共生・国際交流関係団体を支援するため、多文化共生・国際交流推進事業費補助金を交付した。

(円)

No.	主催団体	対象事業	交付確定額
1	そらの会	そらの会 放課後学習支援事業	300,000
2	龍の会	外国籍児童生徒への日本語教育及び学習補助支援	245,000
3	NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会	まつっこ保護者のための日本語教室	154,000
4	KSC子どもサポーターズクラブ	外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援	465,000
5	YACHAY	スペイン語 読み・書き・会話教室 YACHAY	500,000
6	W I S H	外国籍児童就学促進支援事業	112,000
7	多文化共生社会をめざす会	多文化子ども学習支援事業	50,000
8	NPO法人フィリピンナガイサ	FNタガログ語教室	30,000
9	中国文化交流会	中国人のための日本語勉強会	170,000
10	特定非営利活動法人ARACE	アラッセ希望教室	358,000
11	NPO法人A I P E A C E	日本語及び日本社会に関する学習支援事業	500,000
12	わたぼうしブランドデザイン 浜松インターナショナルスクール	ONE GLOBAL (ワン・グローバル)	66,000

13	NPO法人浜松日本語・日本文化研究会（にほんごNPO）	外国人住民に対する日本語学習支援「にほんご日曜教室」	500,000
14	NPO法人浜松日本語・日本文化研究会（にほんごNPO）	外国人住民に対する日本語学習支援「にほんご木曜教室」	250,000
15	International Institute of Education and Culture	成長プロジェクトI-継承言語としてのポルトガル語	177,000
16	浜松市浜北日中友好協会	日中友好交流事業	300,000
17	NPO法人浜松日中文化交流会	日中文化の集い（国際交流）	100,000
18	浜松市中学野球国際親善育成会	第27回国際親善中学野球交歓試合 台湾大会	90,000
19	細江町国際交流協会	米国ワシントン州中学生のホームステイ受入れ、交流	138,000
20	NPO法人フィリピンナガイサ	FN国際交流事業	91,000
21	特定非営利活動法人浜松男女共同参画推進協議会	講演会「イスラム圏の女性は今！」～トルコ、レバノン、シリア、モロッコからの発信	48,000
22	NPO法人浜松日中文化交流会	中国春節の集い（国際交流）	120,000
23	細江町国際交流協会	細江町国際交流協会 国際交流事業	75,000
24	グループ・エスペランサ	グループ・エスペランサ	300,000
合計			5,139,000

②天竜地域事業（699人）

■日本語教室（市委託：外国人学習支援センター事業）

期 間 平成29年4月9日～平成30年3月25日

日曜日 10:00～11:30 全40回

場 所 二俣協働センター他（天竜区二俣町）

内 容 会話クラス、日本語能力試験受験クラス、児童日本語クラス

受講者 登録者数 延べ14人 参加者数 延べ205人

国籍 インドネシア、ブラジル、タイ、ベトナム、フィリピン、ペルー、中国

■英会話教室（自主事業）

場 所 二俣協働センター、光明ふれあいセミナー

	前期		後期	
初級（10回） （火）13:30～15:00	4月13日～6月22日 全10回	3人	9月11日～2月26日 全18回	7人
中級（18回）	4月18日～9月12日	4人		

(火木)19:30～21:00	全 18 回			
上級 (18 回) (木) 19:30～21:00	4 月 18 日～9 月 12 日 全 18 回	8 人	10 月 19 日～3 月 15 日 全 18 回	9 人
合計 31 人				

■イングリッシュ・ブック・ディスカッション（自主事業）

天竜区内在住のアメリカ人英語講師により、英文小説を読み、英語でストーリーについてディスカッションすることで、英語のスキルアップを目指した教室を開催。中級（TOEIC450 点以上）。

場 所 光明ふれあいセンター（天竜区山東）

前期(12 回) 4 月 15 日～9 月 23 日	後期(12 回) 10 月 14 日～3 月 24 日	合計
7 人	6 人	13 人

■協働センターでのふれあいまつり参加（自主事業）

日 時 2 月 17 日（日）9：00～15：30 場 所 光明ふれあいセンター

日 時 3 月 4 日（日）9：00～15：00 場 所 二俣協働センター

内 容 世界を知ってもらうためのクイズと HICE 活動紹介

参加者 合計 450 人程度

③セミナールームの活用（市委託：多文化共生センター事業）（8,995 人）

（前年度 10,883 人）

浜松市多文化共生センターのセミナールームをオープンルームとして一般に公開するとともに講座・セミナー等の事業活動に利用した。

年間利用者数 8,995 人

④多文化共生・国際交流活動支援事業（市委託：多文化共生センター事業）

■多文化共生活動団体への支援及び助言

- ・外国にルーツを持つ若者グループ（COLORS）活動支援（出前講座）

静岡県立大平台高校（1 回）、静岡県立磐田南高校（4 回）、静岡県立新居高校（4 回）

- ・国際交流を進めるグループ（NPO 法人 FRECTive:フレクティブ）活動支援

「多言語 de 世界のクッキング体験」事業共催 年 6 回

- ・フィリピン人の英語の先生のグループ（Filipinos English Teachers in Japan:FETJ）の活動支援

日本人・フィリピン人の 3 歳から 7 歳までの子ども連れの親子を対象に、歌やゲームを通して楽しく英語に親しみながら参加者どうしの交流を行う会「親子で English」の開催を支援。

日曜日 10:00～12:00 開催 年 6 回

- ・国際理解教育活動を進める市民グループ（はままつ国際理解教育ネット）の活動支援

国際理解教育の担い手となる人材育成のための「国際理解教育ファシリテーター養成講座」の開催を支援。(4回)

- ・フェアトレード推進の市民団体「はままつフェアトレードタウンネットワーク」の活動支援
浜松市でフェアトレードを推進している市民団体が定例ミーティング(月1回程度)を開催したり、イベント(「フェアトレード全国フォーラム2017」2017年11月19日(日)会場:静岡文化芸術大学)を開催するのを支援した。浜松市は2017年11月にフェアトレードタウン認証を取得した。

■多文化共生活動者ネットワーク化事業

「補助金説明会&国際交流・多文化共生情報交換会」

日 時 5月28日(日) 14:00~16:00

場 所 多文化共生センター

内 容 ・多文化共生・国際交流推進事業費補助金の説明
・各団体の活動紹介及び情報交換

参加者 10団体13人

6. 情報提供事業

① 機関紙 HICE NEWS の発行 (自主事業)

当協会の活動内容や講座等を掲載。日本語、ポルトガル語、英語の三ヶ国語で発行し、HICE 会員や外国人児童生徒の保護者、外国人学校、協働センター等の公共機関に配布・設置した。

発行部数:日本語版 2500部 ポルトガル語版 2100部 英語 800部 合計 5,500部

発行回数:毎月1日発行 年11回

② ホームページの運営 (自主事業)

ホームページアクセス合計数 123,334件				
	日本語	ポルトガル語	英語	中国語
HICE	○	○	○	-
多文化共生センター	○	○	○	○
外国人学習支援センター	○	○	○	○

③ Facebook の運用 (自主事業)

「いいね」合計数 2,871件

④ HICE info メールによる情報配信 (自主事業)

会員・ボランティア等に情報を配信。年間66回配信。

配信先 2,939人

⑤CIR NEWS の配信（自主事業）

国際交流員（CIR）による英語・日本語併記の文化紹介メールマガジンを毎月配信
配信先 869 人

⑥情報カウンターの設置（市委託：多文化共生センター事業）（5,372 人）（前年度 5,853 人）

情報カウンターにボランティアを配置、外国人市民・日本人市民に対し、必要な情報を提供した。

延べ提供数	外国人	日本人	合計
	2,345 人	3,027 人	5,372 人

⑦「浜松市多文化共生都市ビジョン」改定調査とインターカルチュラルシティセミナー

■「浜松市多文化共生都市ビジョン」改定調査

- ・浜松市内多文化共生団体等へのアンケート調査 団体数 50（回収 30）
- ・浜松市多文化共生団体等へのヒアリング調査 団体数 19
- ・浜松市内外国人材雇用企業へのヒアリング調査 企業数 11

■インターカルチュラルシティセミナー

「インターカルチュラル・シティと多様性を生かしたまちづくり 2017 浜松

～これからの多文化共生社会を考える～

日 時 10 月 5 日（木）～6 日（金）

会 場 アクトシティ浜松コンgresセンターほか

内 容

【第 1 日目 視察プログラム】10 月 5 日（木）

- ・浜松市多文化共生センター視察・意見交換
- ・NPO 活動現場視察「にほんご NPO」

【第 1 日目 公開シンポジウム】 10 月 5 日（木） アクトシティ・コンgresセンター
基調講演「欧州と日本の多文化共生都市のこれまでとこれから」

山脇啓造（明治大学）

ディスカッション「多様性を都市の活力としていくために

～あらたな浜松市多文化共生都市ビジョン策定に向けて～

モデレーター：山脇啓造（明治大学）

コメンテーター：イバーナ・ダレッサンドロ（欧州評議会 ICC プログラムユニット長）

フィル・ウッド（都市政策専門家）

参 加 者：浜松市長、多文化共生関連団体 15 名

講話「インターカルチュラル・シティ・プログラム」

イバーナ・ダレッサンドロ（欧州評議会 ICC プログラムユニット長）

フィル・ウッド（都市政策専門家）

浜松宣言

参加者 94 人

【第2日目 視察プログラム】 10月6日（金）

- ・外国人児童生徒が在籍する公立学校現場視察「浜松市立南の星小学校」
- ・浜松市外国人学習支援センター視察
- ・外国人学校視察「学校法人ムンド・デ・アレグリア学校」
- ・企業におけるダイバーシティ（多様性）の実態視察「㈱静岡県セイブ自動車学校」
- ・外国人コミュニティ、NPO等のキーパーソンとの意見交換
「フィリピン・ナガイサ」「COLORS」
- ・全体の振り返り、ICC インデックス評価結果報告

⑧HICE 設立 35 周年記念誌

『世界の人と暮らして～浜松国際交流協会 35 年のあゆみ』発行

HICE 設立 35 周年にあわせ、職員全員で企画・取材・編集を行い、ポルトガル語・英語版では HICE の 35 年の歩みを写真中心に振り返り、日本語版では現在の浜松市における多文化共生事情がわかる冊子を作成。

内 容

【日本語版】

- ・若者座談会「語ってみた～これからの私たちとハママツのこと～」
- ・多文化スポットの訪問レポート「行ってみた」
- ・まちで出会った外国人のファッションスナップ「まちかど発見！HAMAMATSU 人」
- ・在住外国人のお宅訪問「おとなりさんは外国人」
- ・各国料理のレシピ「わたしのふるさとの味」
- ・日本語教室で聞いてみました「わたしがよく行くおいしいお店」
- ・在住外国人のロングインタビュー「語り継ぐ浜松—このまちで暮らして」
- ・カウンターボランティア紹介「HICE へようこそ！」
- ・市民活動家との出会い「HICE とともに 35 の出会い」
- ・浜松市の外国人や多文化共生に関わる統計情報「35 の数字」
- ・HICE 概要
- ・外国人あるある 4 コマ漫画
- ・浜松景勝（写真）

【ポルトガル語英語版】

- ・ A Localização da HICE nos Últimos 35 Anos
HICE's Offices Over the Last 35 Years
HICE 所在地の 35 年の歩み
- ・ Projeto Emergencial de Apoio aos Estrangeiros Decorrente da Crise Financeira Mundial
Emergency Projects for Foreigners due to the World Financial Crisis
緊急経済対策事業
- ・ Áreas de Atuação Prioritária da HICE
HICE's Core Initiatives

HICE の重点事業

- Eventos de Intercâmbio Internacional

English Improvement Training for Elementary School Teachers

国際交流のイベント

- Encontros com a Comunidade Estrangeira

Events for the Foreign Community

外国人支援事業

仕様：A4 変形版、216 ページ、日本語版—縦書き右綴じ、ポルトガル語英語版—横書き左綴

事業報告の附属明細書

平成 29 年度事業報告には、「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、定款 8 条 (2) に規定する事業報告の附属明細書は作成しない。